

シンポジウム

# 生きづらさの先にある孤独死

～団地、災害の現場と向き合う～

2018(平成30)年

3月24日(土)

13:00～17:00(12:30開場・受付)

キャンパスプラザ京都(京都駅前)

受講料：無料・事前申込み不要

**中沢卓実**氏(千葉県常盤平団地自治会前会長、まつど孤独死予防センター所長)

**近藤誠司**氏(関西大学社会安全学部准教授)

**小野直哉**氏(未来工学研究所 22世紀ライフエンスセンター主任研究員)

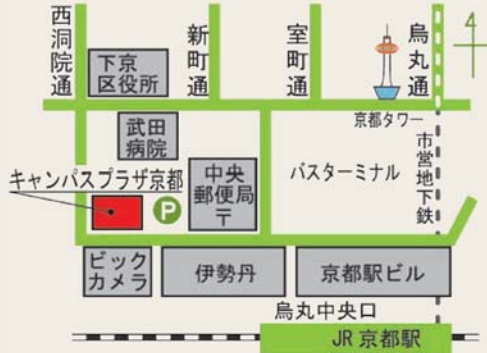
**渡邊勝之**氏(未来工学研究所 特別研究員、プロジェクト「いのち」事務局、いのちアカデミー事務局)

主催：浄土真宗本願寺派総合研究所

孤独死は、その死にざまに問題があるということではなく、望まずして孤立し、孤独に死を迎えざるを得ない関係が希薄化した社会のあり方に問題があると見るべきである。より良い社会や充実した生き方を目指すためには、いのちの関係性についてあらためて考える機会が必要ではないだろうか。この度、孤独死をテーマにシンポジウムを開催することで、各界の有識者の提言を受けつつ、一人ひとりが孤独や関係性について考える機会としたい。

## 概要

日 時：平成 30 年3月 24日(土)  
13：00～17：00(12:30 開場・受付)  
場 所：キャンパスプラザ京都(京都駅前)  
京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町 939



受講料：無料  
申し込み：事前申込み不要  
主 催：浄土真宗本願寺派総合研究所

## 日程

12：30 開場・受付  
13：00 開会・趣旨説明  
13：05 提言1「団地にみる孤独」  
中沢卓実氏  
14：05 提言2「災害にみる孤独」  
近藤誠司氏  
15：05 休憩  
15：20 小野直哉氏コメント  
15：50 パネルディスカッション  
17：00 終了

## 登壇者

## ◆中沢卓実氏

千葉県常盤平団地自治会前会長、まつど孤独死予防センター所長  
1934年生まれ。加茂暁星高校卒業後、産経新聞社に入社。『週刊サンケイ』編集部勤務後、タウン誌『月刊myふなばし』編集長を務める。この間、千葉県松戸市の常盤平団地自治会会長、松戸市社会福祉協議会理事、松戸市学区審議会議員などを歴任。50年前から自治会活動に関わり、27年前から自治会会長を務め、常盤平団地地区社会福祉協議会を立ち上げ、本格的に「孤独死の課題」に挑む。千葉県発行エンディングノートの編集や世界各国のメディアから孤独死に関する取材を受けている。

アシスタント：水上由輝徳氏

NPO法人終活サポートセンター

1984年生まれ。葬儀の現場・墓地・納骨堂販売の経験を活かし生涯学習としての終活やエンディングノートについて、多数の講演会で講師を務め累計29000人以上の相談対応。終活大学の主催。寺院の再活性化や納骨堂、樹木葬のプロデュース、エンディングノートの監修なども務める。常盤平団地では6年ほど前から孤独死と終活という切り口で活動中。

## ◆近藤誠司氏

関西大学社会安全学部准教授

京都大学大学院情報学研究科博士後期課程指導認定退学。博士(情報学)。  
元NHKディレクターとして災害報道に従事。NHKスペシャル『メガクエイク 巨大地震』で科学技術映像祭・内閣総理大臣賞を受賞。人と防災未来センター・リサーチフェロー、京都大学防災研究所巨大災害研究センター非常勤講師、神戸学院大学非常勤講師を兼務。主な著書に『ワードマップ 防災・減災の人間科学 いのちを支える 現場に寄り添う』(新曜社、2011)、分担執筆で『現場でつくる減災学 共同実践の五つのフロンティア』(新曜社、2016)など。年間50本ほど、各地で講演活動をおこなっている。テーマは、地域防災や防災教育、災害情報とメディアなど。日本で唯一の「災害ジャーナリズム論」のゼミナールを開講。2016年度「ぼうさい甲子園」で優秀賞受賞。

## ◆小野直哉氏 (コメンテーター)

未来工学研究所 22世紀ライフエンスセンター主任研究員

福島県いわき市生まれ。明治鍼灸大学(現明治国際医療大学)鍼灸学部鍼灸学科卒業後、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医療経済学分野修士課程等を経て、京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻博士後期課程在籍中に(財)医療経済研究機構リサーチ・レジデント及び協力研究員、(財)先端医療振興財団クラスター推進センター科学技術コーディネーター、(特非)バイオグリッドセンター関西科学技術コーディネーター、同志社大学感情・ストレス・健康研究センター嘱託研究員等に従事。  
現在、(公財)未来工学研究所22世紀ライフエンスセンター主任研究員、明治国際医療大学非常勤講師。

研究テーマは、超少子高齢・人口減少社会に伴い、“Glocal Life”の視点から、持続可能な社会におけるエコロジカルでサステナブルな医療・健康を目的とした、伝統医学、相補・代替医療及び統合医療によるネットワーク・ケア、ヘルス・プロモーション、医療経済学的評価、各国間制度及び政策比較、災害対応等。

## ◆渡邊勝之氏 (コーディネーター)

未来工学研究所特別研究員

プロジェクト「いのち」事務局

いのちアカデミー事務局

博士(鍼灸学)。人体科学会理事、身の医療研究会理事、始原東洋医学会関西西部会講師。学際的研究を行うことを目的として、研究者・医療従事者をはじめ「いのち」に興味・関心を持つ者を構成員とした研究会「プロジェクト「いのち」」を運営中であり、幅広い分野に精通している。主な出版書に、『医療原論(第二版)―いのち・自然治癒力―』(医歯薬出版株式会社)、『医学・医療原論―いのち学&セルフケア―』(錦房株式会社)他がある。